

脳梗塞後パーキンソニズム・強制把握に対し左補足運動野への経頭蓋直流電気刺激法 (tDCS) を含む集学的治療が奏功した一症例

はま さき よし ふみ¹⁾²⁾ き さ とし ろう²⁾¹⁾ きし さき こ¹⁾²⁾
 濱 崎 由 文¹⁾²⁾ 木 佐 俊 郎²⁾¹⁾ 岸 咲貴子¹⁾²⁾
 か とう み ち お³⁾ ふく しま みず き⁴⁾ もち だ ゆり な⁴⁾
 加 藤 三千夫³⁾ 福 島 瑞 輝⁴⁾ 持 田 優里奈⁴⁾
 こ しの しん や⁴⁾ みづ しま みのる⁵⁾
 古志野 慎 也⁴⁾ 美津島 穰⁵⁾

キーワード：経頭蓋直流電気刺激法 (tDCS)，脳梗塞，パーキンソニズム，強制把握，運動前野，補足運動野

要 旨

くも膜下出血に続発した脳梗塞（左前頭葉，右頭頂葉）に合併したパーキンソニズム（振戦，固縮，姿勢・歩行障害）・高次脳機能障害（右手強制把握，注意障害，失語）の患者に，経頭蓋直流電気刺激法（transcranial Direct Current Stimulation，以下 tDCS）を含む集学的治療を行った。頭部 MRI 画像から，上記症状は左補足運動野を含む左前頭葉及び右頭頂葉の機能低下が原因と考えられた。そこで左大脳の補足運動野を主な標的に 2 週間の tDCS 治療期間 B と休止期間 A を繰り返す tDCS 治療を従来の治療に追加し，ABAB デザインで tDCS の効果を調査した。tDCS 治療期間である B 期で振戦の消失，固縮と強制把握の軽減，UPDRS 値の低下，FIM 値の向上などを認めたことから，tDCS を従来の治療に併用することは有効であると考えられた。

はじめに

経頭蓋直流電気刺激法（transcranial Direct Current Stimulation，以下 tDCS）は，頭皮に

貼付した電極から1-2mAの微弱な直流電流を通電することで，電極下の脳皮質の興奮性を調整する手法である。経頭蓋磁気刺激療法（rTMS）のように脳の深部には刺激が届かないが，通電しながらリハビリテーション（以下リハと略す）を行える利点がある。

このたび，くも膜下出血に続発した脳梗塞（左前頭葉，右頭頂葉）に合併したパーキンソニズム（振戦，固縮，姿勢・歩行障害）・高次脳機能障害（右手強制把握，注意障害，失語）の患者に

Yoshifumi HAMASAKI, et al.

1) 島根大学医学部リハビリテーション医学講座

2) 松江生協病院リハビリテーション科

3) 同 放射線技術科

4) 同 リハビリテーション室

5) 同 脳神経外科

連絡先：〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1

島根大学医学部リハビリテーション医学講座